

## 7 歯及び口の健康

### 健やか山梨21 - 2008年版 -

#### <現状と課題>

- 歯及び口の健康に関する指標は、ほぼ順調に改善
- 12歳1人当たりの平均う歯（むし歯）保有数は2.04歯

#### 基本指針

#### 《取り組みの方向性》

- 生涯を通じた歯と口の健康づくりに関する施策の実施
- 歯及び口の健康に関する普及啓発
- 生活習慣病と関係のある歯周病、う歯（むし歯）の予防と早期治療

### ◆ 評価

目標設定	対象	目標値	ベースライン値	中間評価 あるいは2008年版 策定時	直近実績値	評価
一人平均う歯数の減少	12歳	1.0歯以下	3.47歯(H10)	2.04歯(H16)	1.6歯(H23)	B
80歳で20歯以上 60歳で24歯以上	男女(80歳)	20%以上	6.0%(H10)	(28.9%)(H16)	41.5%(H24)	A
	男女(60歳)	50%以上	34.4%(H10)	(52.8%)(H16)	66.5%(H24)	A

- A 目標に達した      B 目標値に達していないが改善傾向にある      C 変わらない  
D 悪化している      E 評価困難

#### 【現状と課題】

○ 乳幼児期〔3歳児でう蝕のない者の割合(目標値90% / 現状値 全国77.1% 山梨71.7%)〕及び学齢期〔12歳児の1人平均う歯数(目標値1.0以下 / 現状値 全国1.2 山梨1.6/山梨36位)〕においてう蝕に関する指標等、目標値に達していない。成長・発育段階にあるこの時期において健全な歯及び口腔の機能を維持することはその後のライフステージにおける歯及び口腔の健康に大きく影響を及ぼす。

○ 成人期における歯肉炎・歯周炎に関する指標が目標値に達しておらず、また、各市町村において健康増進事業として実施されている歯周疾患健診の受診率は低率(1.7%)である。

○ 学校教育終了後は歯科口腔保健に関する教育や啓発を受ける機会が減り、職域における歯科健康診査の実施を勧奨するなど、成人期における歯科保健対策を充実させる必要がある。

○ 超高齢化が進む中、「8020」を達成していない者、または、達成していても残存歯の状態が悪く、良く機能していない者も増えている。高齢期での口腔機能維持及び生活習慣病予防等の普及啓発を図り、歯及び口腔の健康づくりへの関心を高める必要がある。

### 【今後の方向性】

○ 乳幼児期における健全な歯・口腔の育成、学齢期における口腔状態の向上(う蝕予防等)、成人期における健全な口腔状態の維持、高齢期における歯の喪失防止等、各ライフステージに応じた8020運動を実施し、生涯を通じた歯及び口腔の健康づくりを目指す。

○ 歯科疾患の予防、口腔の健康の保持・増進、生活の質の向上に向けた口腔機能の維持向上等、総合的な歯科口腔保健の推進を図る。

○ 「歯科口腔保健の推進に関する法律」の基本理念の下、すべての県民が健康な歯および口腔の健康を維持できるよう、関係行政、各関係団体等との連携体制を整備し、歯科口腔保健の推進を図る。

### 【参考】 健やか山梨21推進会議、構成団体の取組みの一部(H23)

健やか山梨21・山梨県国民健康保険団体連合会	いきいき山梨ねんりんピック、歯の相談
山梨県歯科医師会	周産期からの歯科保健事業における幼児う蝕予防事業、フッ化物を応用した8020の達成事業、歯の衛生週間事業
山梨県歯科衛生士会	小学校へのブラッシング指導、歯の衛生週間事業
市町村	乳幼児健診、2歳児歯科健診、8020表彰、歯科相談